



移住者インタビュー Interview 1

名前：山崎晋作さん
出身地：三島村竹島
現住所：竹島

●移住のきっかけや経緯について

生まれ育った竹島の中学校を卒業してから約15年間、生活の拠点は鹿児島市と東京でした。いろんな職を経験し、2010年に鹿児島市内のコンピュータ会社に入社しました。帰ろうと思った理由は「育児」と「ふるさとの活性化」。現在の妻と会社で出会い、「子供ができれば島で育てたい」「村に帰って自分のできることをやりたい」と竹島へのUターンを決意しました。

●移住して良かったところ、困ること

島の魅力はやはり自然。そして人とのつながりです。帰ろうと思った理由の「育児」にとってもいい環境なんです。自然の中で伸びのびと成長できますし、島の人みんなが子供をかわいがってくれます。保育園もできました。待機児童はもちろんです。ただ、育児に関してのデメリットもあります。竹島には商店が1件もないため、おむつやミルクがうっかりなくなってしまった時などが困ります。醤油くらいならだれかに借りられるのですが、また、病院がないのもしもの時が不安です。緊急時の対処はまだ改善の余地があると感じています。



山崎さんご家族



●現在の暮らしについて

Uターンして1年後の2015年に第一子が誕生。そして、NPO法人を設立しました。目的は村を活性化することです。活性化するためには減少している人口を増やすことが必要。人口を増やすためには仕事が必要です。そのために、村の特産「大名筍」のブランディングに取り組んでいます。たくさんの方の協力を得てテレビや新聞などのメディアに取り上げられ、販路開拓も順調に進んでいます。大名筍を中心に新しい事業もスタート。まずは自分の家族が生活できる基盤をつくらうと活動しています。

●将来の生活設計(目標)

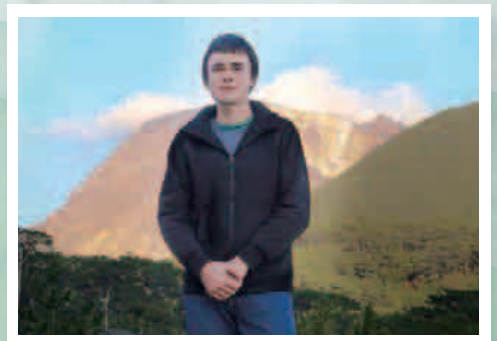
まずは大名筍やそれに付随する事業を成功させたいです。成功事例をつくることでチャレンジしやすい環境ができると思っています。その環境ができたらクリエイティブな移住者が増え、村がもっと楽しい場所になります。その上で自分の家族はもちろん、子供のいる家庭がしっかりと収入を得て楽しく生活しているようにしていくのが目標です。商店もつくりたいですね。

移住希望者へのアドバイス

島で一番大事なのは人です。環境には慣れます。人口が少ないので、住民同士が助け合ってコミュニティが維持されています。実際に来てなるべく多くの島民と話し、島で楽しくやっていけそうか感じてみてください。島の生活を一緒に楽しめる方が来てくれるのを楽しみにしています。

移住者インタビュー Interview 2

名前：ヴィノクロフ・オレグさん
出身地：エストニア
現住所：硫黄島



●移住のきっかけや経緯について

エストニアではIT会社に勤めており、プログラムのチェック業務を担当していました。

日本に来たのは7年前。小さい頃から日本のアニメや映画を見ていて、いつか日本に住んでみたいと思っていました。

現在の妻と結婚して最初に住んだのは長崎です。IT関係の仕事は東京に多いのですが、東京のようなごみごみしたところには住みたくなりませんでした。その後、ホームページで偶然に見た三島村を気に入り、移住しました。

●移住して良かったところ、困ること

今の暮らしには満足しています。特に島を取り囲む海はすばらしく、なんといっても魚が豊富です。地元のバルト海の魚よりも種類が豊富で、美味しいです。

ただ、こちらの寒さは苦手です。日本の家は壁が薄いので、特に冬はエストニアよりも寒いです。

あと、不満ではありませんが、島に医師がいなかったり、火山ガスの影響でサビが発生しやすいこと、湿気によるカビの発生が気になります。

●現在の暮らしについて

村営住宅に、専業主婦の妻、娘4歳、息子2歳の4人で住んでいます。

日本のお茶(八女茶など)をインターネットで海外に売っています。お茶の販売はリピーターが多く、たまに大量の注文もありますが、これだけでは食べていけない。牧場のアルバイトのほか、カヤックで海に出て釣った魚を売ったりしながら生活しています。

●将来のイメージ

今度船舶の免許をとりに行く予定で、免許がとれたら一本釣り漁を本格的に手がけてみたいと思っています。

また、観光コンテンツとして、スポーツフィッシングを取り上げるのも面白いと考えています。

いずれにしても、資金援助を受けるのではなく、自分の力で将来を切り開いていきたいと思っています。

オレグさんご家族



移住希望者へのアドバイス

仕事が一番問題だと思いません。先にお話した、医者なことやサビ問題などが懸念事項ではありますが、それ以外は特に心配ごとなどはありません。近所の人にも親切にしてもらっています。